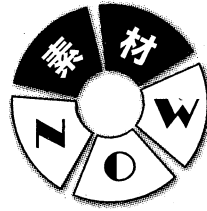


用途 高さ ニーズに合わせて商品提供

JFEシビルが、建築物向け耐震・制振デバイスの拡充に注力している。1994年の販売開始以来、デザイン性に定評のある「二重鋼管座屈補剛ブレース」は主力のロングラン商品として累計約1200物件に採用されている。現状ではブレース型、間柱型、壁型の3タイプを取りそろえ「建物の用途、高さ、それぞれのニーズに応じて商品を提供できるのが強み」と、システム建築事業部の宮川和明デバイス営業部長は自信をのぞかせる。100億円規模といわれる耐震・制振デバイス市場ですでに約20%のシェアを獲得するが「3年後には倍増の40億円を目指す」と、新築市場向けにデバイス商品の売り込みを加速する。



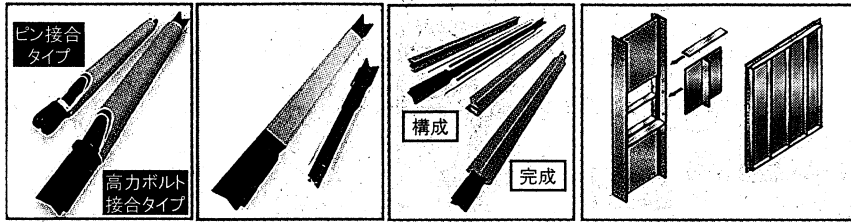
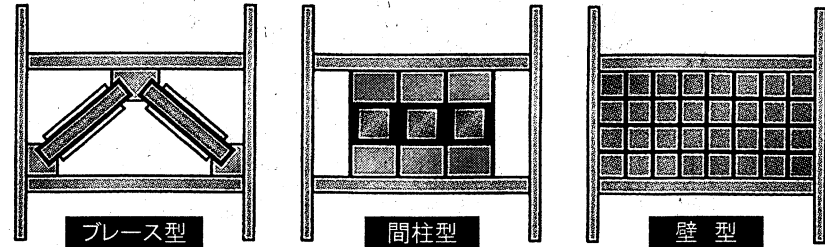
JFEシビルの耐震・制振デバイス

新築市場見据え3年後に売上げ倍増

同社の販売実績によると、ピークの2013年には売上げの3分の2を耐震改修分野が占めていた。現在は教育施設などの耐震改修がほぼ一段落したこと、市場は年々縮小傾向にある。今後は「物流施設向けの新築耐震などがボリュームゾーン」となり、都市圏での巨大地震も想定されていることから、需要は大きく拡大する」とみる。「何らかのデバイスが採用される時代」を迎えつつあり、こつとした情勢を背景に競争が激化することを想定し、同社は既存製品の徹底したコストダウンと商品の多様化に取り組んでいる。

ブレース型のうち、新商品の「J-UPブレース」は、主力の「二重鋼管座屈補剛ブレース」と、「ハーフ十字ブレースダンパー」の拘束力をさらに「進化」させ、軸力を伝達する心材を一对の鋼モルタル板で挟み込んだ高性能の座屈拘束ブレースだ。通常の製品の軸ひずみが2%に比べて4%まで対応できる安定した復元力特性を有し、超高層ビルの長周期地震動にも対応できるすぐれた変形性能を備えた。宮川氏は「15年の販売開始から1年間にわたりモルタル板を扱える生産体制を確立するなど、コスト低減を実現した」と胸を張る。あくまで主力の「二重鋼管座屈補剛ブレース」を軸に、「グレードに応じて提案できるのが強み」とも。

物流施設の建設が活発化する中、17年秋をめどに、物流倉庫をターゲットにした新築耐震ブレースに加え新築制振のダンパーも市場に投入する考えだ。「日本製品の品質には定評があり(台湾を中心とする)輸出も見逃せない」と海外市場にも熱視線を注ぐ。現状は市場全体の2%程度にとどまる海外向けの販売比率を5-10%に引き上げる方針だ。



二重鋼管座屈補剛ブレース ハーフ十字ブレースダンパー J-UPブレース JFEの制振間柱と制振壁